

第5章 復旧と復興へ向けて

5.1 社会資本の復旧・復興

大分県水害対策会議の「平成24年梅雨前線豪雨災害 復旧・復興推進計画の進捗状況、平成26年3月4日」¹⁾及び大分県土木建築部の「平成24年災 豪雨災害誌 ～平成24年梅雨前線豪雨を振り返って～」²⁾を参考にして、日田市内の県管理施設の復旧・復興状況を記す。

また、国管理の花月川の復旧・復興については、「牟田・野呂：花月川の平成24年7月九州北部豪雨への対応」³⁾等の参考文献に基づいて、復旧・復興状況を記す。

5.1.1 県管理施設

(1) 道路・河川等の復旧

1) 応急復旧

大分県水害対策会議の「復旧・復興推進計画に基づく一年間の進捗（平成25年6月25日現在）、平成25年7月1日」⁴⁾においては、応急復旧は、日田市を含む県内全てで完了したことが報告されている。

2) 本復旧

◎激甚災害（本激）の指定（平成24年8月10日閣議決定 8月15日公布・施行）について

- ・指定災害：「平成24年6月8日から7月23日までの間の豪雨及び暴風雨による災害」
- ・対象地域：全国
- ・適用措置 公共土木施設災害復旧事業等に関する特例の財政援助
- ・国土交通省所管事業の国庫負担嵩上げ措置（日田市、竹田市、玖珠町）

①道路の本復旧

市町村名	事業箇所数			
	応急復旧	査定済	着手済	本復旧
日田市	48箇所	15箇所	48箇所	47箇所

※事業箇所数：県の管理施設において災害復旧工事を実施する箇所数（以下同じ）

（うち主な復旧箇所）

市町村名	路線名	場所	本復旧日
日田市	国道386号	日田市友田	平成24年10月12日完了

②河川の本復旧

市町村名	事業箇所数				
		応急復旧	査定済	着手済	本復旧
日田市	202箇所	25箇所	202箇所	199箇所	184箇所

(うち主な復旧予定箇所)

市町村名	河川名	場 所	本復旧予定日
日田市	渡里川	日田市吹上町	平成 25 年 2 月 8 日完了

③砂防設備の本復旧

市町村名	事業箇所数				
		応急復旧	査定済	着手済	本復旧
日田市	72箇所	4箇所	72箇所	71箇所	65箇所

(うち主な復旧予定箇所)

市町村名	河川名	場 所	本復旧予定日
日田市	串川	日田市高瀬	平成 25 年 6 月 28 日完了

3) 県による市町復旧事業の受託 完了

市町村名	受託箇所	基本協定書 締結年月日	実施協定書 締結年月日	備考
日田市	吾々路川	平成 24 年 11 月 22 日	平成 24 年 12 月 20 日	道路災
	志谷川	平成 24 年 11 月 22 日	平成 24 年 12 月 20 日	橋梁災他

4) 有田川の激甚災害対策特別緊急事業²⁾

筑後川水系花月川及び支川の有田川では、7月3日及び14日の梅雨前線豪雨により観測史上最高の水位を記録する洪水が発生した。

7月3日には、花月川及び有田川の沿川において、堤防からの越水や堤防決壊等により835戸の家屋が浸水する甚大な被害が発生したため、有田川において、国管理の花月川と一体的に採択された河川激甚災害対策特別緊急事業により河道掘削、築堤及び横断工作物の改築等を実施する。

〔事業内容〕

事業主体：大分県

事業箇所：日田市大字東有田

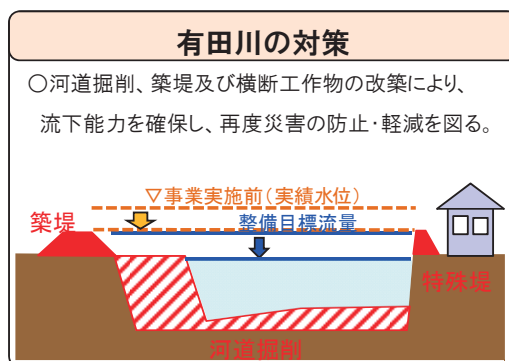
河川名：一級河川筑後川水系有田川

事業期間：平成24年度～概ね5年間

事業費：1,000百万円

延長：L=7.1km

工事概要：河道掘削、築堤、護岸、橋梁改良、堰改築等



※河川激甚災害対策特別緊急事業

洪水、高潮、地震等による激甚な災害に対して、概ね5年間の緊急的な集中投資による河川改良により再度災害防止を図る事業。

5) 志谷川災害関連緊急砂防事業²⁾

〔概要〕

平成24年7月11日から14日にかけての梅雨前線豪雨により、最大時間雨量88mm、最大日雨量459mmの集中豪雨をうけ、志谷川で土石流が発生した。人家1戸と志谷集会所が全壊する被害が生じた。災害関連緊急砂防事業で砂防堰堤2基を設置するとともに、特定緊急砂防事業にて砂防堰堤1基および溪流保全工を実施する。

〔事業内容〕

事業主体：大分県

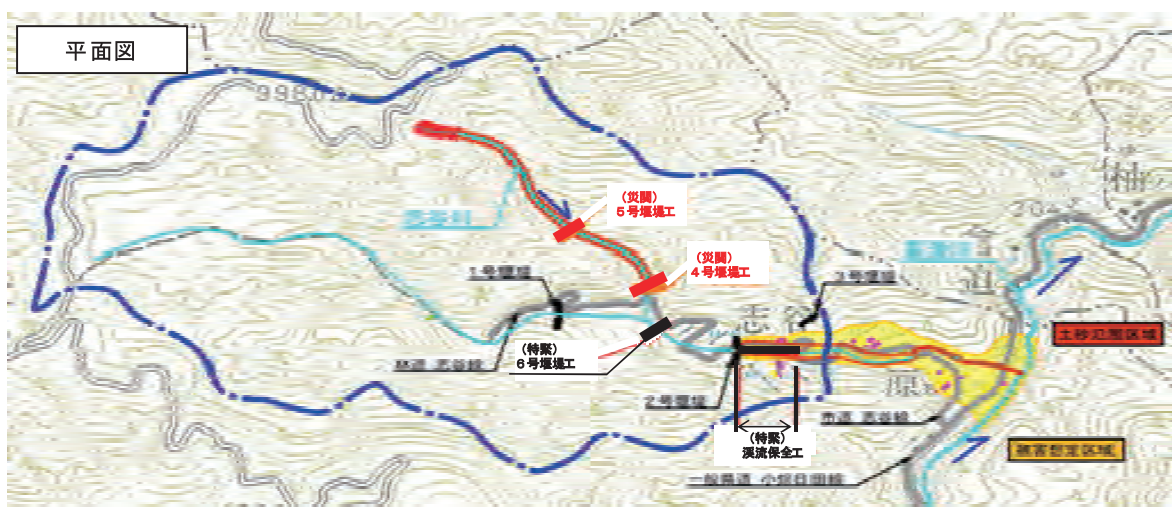
事業箇所：日田市前津江町柚木

箇所名：志谷川

事業期間：平成24年度

事業費：446,400千円

工事概要：砂防堰堤2基



6) 本復旧の写真²⁾

□日田土木事務所管内

被災直後

(河川)



小野川 (日田市大字小野)

復旧完了後



(砂防)



吾々路川 (日田市大山町西大山)



(道路)



朝田日田線 (日田市前津江村大字柚木)



写真-5.1.1 日田土木事務所管内の復旧前後の写真

(2) 農地・農業用施設等の復旧

1) 本復旧

◎激甚災害（本激）の指定（平成24年7月31日閣議決定8月3日公布・施行）

- ・指定災害：「平成24年6月8日から7月23日までの間の豪雨及び暴風雨による災害」
- ・対象地域：全国
- ・適用措置 ①農地等の災害復旧事業に係る補助の特別措置
②農林水産業共同利用施設災害復旧事業費の補助の特例
③小災害債に係る元利償還金の基準財政需要額への算入等

①市町による復旧事業（県の支援）

○農地・農業用施設等の復旧

市町村名	事業箇所数					
	応急復旧	査定済	着手済	廃工※	本復旧	
日田市	826箇所	7箇所	826箇所	815箇所	9箇所	435箇所

(3) その他施設の復旧

1) 治山施設等の復旧

○県単治山事業（国の災害復旧対象外） 完了

市町村名	事業箇所数			
	応急復旧	着手済	本復旧	
日田市	1箇所	0箇所	1箇所	1箇所

（うち主な復旧予定箇所）

市町村名	場 所	本復旧予定日
日田市	日田市天瀬町馬原字黒谷	平成25年3月27日完了

○林地崩壊の復旧 完了

市町村名	事業箇所数				
	応急復旧	認可済	着手済	本復旧	
日田市	4箇所	1箇所	4箇所	4箇所	4箇所

（うち主な復旧予定箇所）

市町村名	場 所	本復旧日
日田市	日田市大字小野字釜ヶ瀬	平成25年9月27日完了

2) 林道等の復旧

①林道の復旧

市町村名	事業箇所数				
	応急復旧	査定済	着手済	本復旧	
日田市	28箇所	0箇所	28箇所	26箇所	21箇所

- ・ 県独自の補助制度：林内路網緊急補強事業

(事業概要)

搬出間伐重点区域等、早急に木材の搬出が計画される区域において、九州北部豪雨災害等により被災し、木材搬出に支障を来している林道の復旧をはかる。

(採択基準)

1箇所40万円以上で公共採択基準を満たさないもの（利用区域30ha未満、延長500m未満等）

(利用実績)

8件、事業費25,663千円、内補助金12,831千円（補助率50%）

(うち主な復旧予定箇所)

市町村名	路線名	場所	本復旧予定日
日田市	花月線	日田市大字花月	平成26年度中

②作業道の復旧

市町村名	事業箇所数	本復旧
日田市	103箇所	69箇所

- ・ 県及び市による補助率上乘せ助成

林業再生路網整備事業（県単：県45%、市45%）

森林整備地域活動支援交付金（国50%、県25%、市25%）

林地及び林業用施設災害復旧事業（日田市単独：85%）

3) 都市施設の復旧

①公園の復旧 完了

市町村名	被災箇所数	本復旧	主な復旧箇所		
			公園名	場所	本復旧日
日田市	3箇所	3箇所	月隈公園	日田市丸山	平成24年12月11日完了

5.1.2 花月川（国管理）の復旧・復興³⁾

1) 激特事業の概要

平成24年7月3日及び7月14日出水の被災を受けて、再度災害防止、軽減を図るため「河川激甚災害対策特別緊急事業」が採択された。事業期間の平成24年度から平成29年度までで河道掘削、築堤及び横断工作物の改築が実施された。

2) 工事中・完了後の写真等³⁾

○花月川 6k200 付近



・7月4日被災直後



・7月13日緊急災完了直後



・平成25年7月13日本復旧工事完了後

写真－5.1.2 花月川(6k200付近、緊急災箇所)の復旧前後の写真³⁾

○河道掘削、築堤

河道掘削については、筑後川との合流点から直轄管理上流端の8.7kmまでのほぼ全川に渡り実施された。掘削する際、事前に現況の護岸基礎の位置を試掘により掘削後の河床高に対して十分深さが確保されているかを確認した上で必要に応じて根継ぎ工や根固め工が実施された。

築堤については、特に上流部の無堤または小規模堤防の区間において、河川拡幅を前提とした築堤が実施された。新規となる堤防の護岸については、現地の河床にある玉石を仕分け、玉石と練りコンクリートによる護岸が整備されている。この新規堤防により河道幅は約1.5倍の広さとなり、河川の水位低下の効果を上げている。

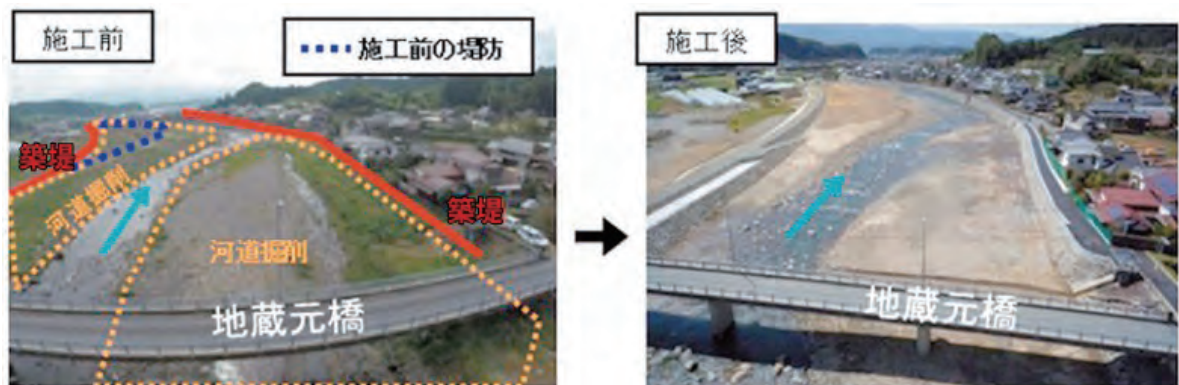


写真-5.1.3 上流部(地蔵本橋付近)の整備状況³⁾

○横断工作物の改築

横断工作物の改築については、3日の出水において橋梁の桁下高、橋脚の経間長の不足を因とする流木塵芥の引っかかりや固定堰による堰上げによる溢水被害が発生していることから、夕田橋の架け替え、城内頭首工の可動堰化、光岡頭首工のポンプ取水切り換えによる堰堤部の撤去などが実施され、洪水時における円滑な流下を図られた。



写真-5.1.4 夕田橋の架け替え⁴⁾

○激特事業の効果について³⁾ (参考)

「平成29年7月九州北部豪雨」において花月川沿川で再び、甚大な被害が発生した。7月5日の昼頃から夜にかけて強い雨域がかかり続け短時間に記録的な雨量を記録し、観測史上最大の雨量を記録した。花月川流域平均雨量について平成24年7月九州北部豪雨の時と比較すると、累加雨量は、平成24年7月九州北部豪雨時190ミリに対し、約1.6倍の280ミリを記録した。

また、花月水位観測所においても平成24年7月九州北部豪雨を上回る観測史上最高水位となる4.53mを記録した。

激特事業は、築堤、河道掘削、橋梁架替、固定堰の撤去などの対策を行うことにより、平成24年7月九州北部豪雨と同規模の降雨があった場合、川の水位を約1.4m程度低下させ氾濫を防止するものであり、平成28年度末で約84%の進捗があり概ね完了していた状態であった。

この効果もあり、平成29年7月九州北部豪雨は平成24年7月九州北部豪雨と比較すると雨量も多く、さらに高い水位を記録したにもかかわらず、浸水面積、床上浸水とともに約3割減少させることができ一定程度、激特事業の効果があったものと考えられている。

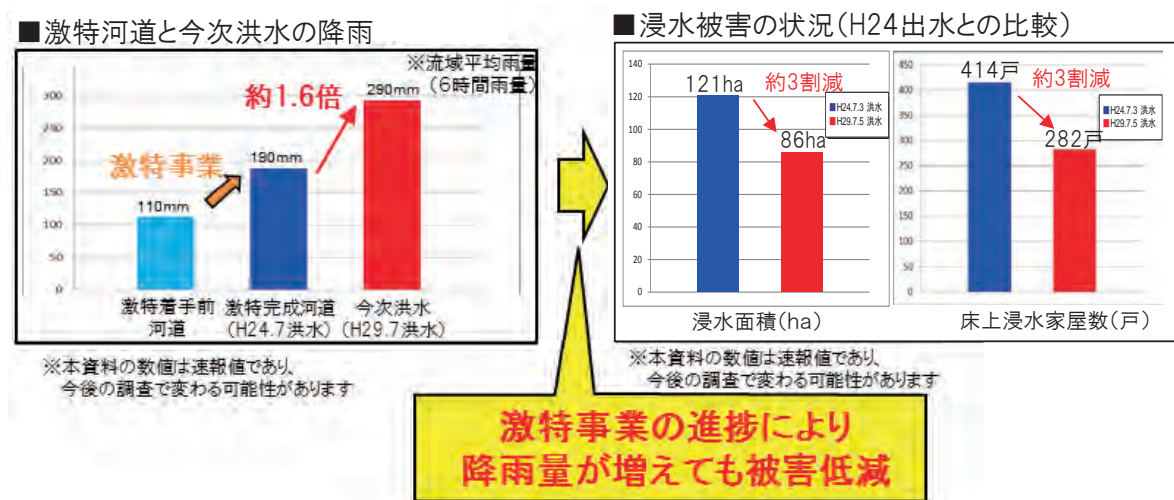


図-5.1.1 花月川における激特事業の効果³⁾

3) 花月川の最近の状況

以下に花月川の最近の状況を幾つかの写真で示す（令和2年1月24日撮影）。



・新山渡瀬橋より上流を見る



・新山渡瀬橋より下流を見る



・坂本橋より下流を見る



・坂本橋より上流を見る



・財津橋より上流を見る



・髪永井堰下流付近(手前が右岸)

写真-5.1.5 花月川の最近の状況(令和2年1月24日時点)